

接辞「～めく」の意味と用例

鈴木 智美

(2003.10.31 受)

【キーワード】 接辞、「～めく」、コーパス、期待性、非期待性

1 はじめに

本稿の目的は、現代日本語の「～めく」という形式がどのような名詞に接続し、どのような事態を述べる際に用いられるのかを実例を見ながら探り、「～めく」の意味を考えることである。

分析の対象とするのは以下の例(1)(2)に示すような「N(名詞)+めく」である。(以下、対象となる「～めく」には下線を付し、「～めく」が接続する名詞は■で示す。先行研究からの引用についても同様とする。)

- (1) 陽射しが春めいてきた。
- (2) ついお説教めいたことを言うてしまう。

2 先行研究の記述

先行研究における「～めく」の意味の記述と、挙げられている例文は、以下の通りである。

- (3) 『くらべてわかる 日本語表現文型ノート』(大阪 YWCA 日本語教師会 (2000:250) 下線等は引用者)

「Aめく」(名詞+めく)

意味1: Aのように感じられる。

- ・彼の話は冗談めいて聞こえたが、目は真剣だった。
- ・部屋の中では何やら、儀式めいたことが行われていた。
- ・親切めいた口調で話しかけてきた男が、実は詐欺師だった。
- ・モナリザは謎めいたほほ笑みを浮かべている。

- ・あの事件以来、強迫めいた電話までかかってくるんですよ。

意味2：Aのようになってくる。

- ・山里の景色もすっかり春めいてきました。
- ・ほんの少しアドバイスをするつもりが、何だか説教めいてしまったね。
- ・最近の彼女はスター女優として、きらめいてきたね。
- ・群衆がざわめく中、首相みずからが壇上でスピーチをはじめた。
- ・馬は足を引きずって、よろめきながら歩いている。

ただし、上に挙げられている「きらめく」「ざわめく」「よろめく」については、「きらきら」「ざわざわ」「よろよろ」という擬態語から派生したものとされている⁽¹⁾。また、これらは、通常国語辞典でも一語として記載されているものであり、本稿では分析の対象からは除くこととする。

- (4) 『日本語文型辞典』（グループ・ジャマシイ編著（1998:569-570）下線等は引用者）

「Nめく」

名詞に付いて、それが表す要素をもっている、という意味を表す。使用する名詞は限られている。名詞を修飾する場合は「NめいたN」という形になる。

- ・少しずつ春めいてきた。

（少しずつ春のようになってきたということ、冬の終わりごろに使う。）

- ・どことなく謎めいた女性がホールの入り口に立っていた。
- ・彼は、皮肉めいた言い方をした。
- ・彼の作り物めいた笑いが、気になった。

- (5) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（白川博之監修（2001:542-543）下線等は引用者）

「～めく、～ばむ、～じみる」は特定の名詞や動詞とともに用いられて、

その名詞が表す状態へ変化することを表します。

・一日ごとに日射しが春めいてきました⁽²⁾。

- (6) 『日本語教育事典』(日本語教育学会編(1987:426) 下線は引用者)

名詞、形容詞の語幹、形容動詞の語幹、副詞「わざと」の後に付けて五段活用の自動詞をつくる。前項成分の持つ意味内容の徴候、兆し、又は要素が、それと分かるほどに表面に現れ出た様子、又は、加味された様子を表す。「～のように見える」「～の傾向をもつ」の意。(例) 春めく、色めく、古めく、婀娜(あだ)めく、わざとめく。[中略]

名詞に付ける場合、任意に造語し得る幅がある。(例) 坊さん～、怪談～⁽³⁾

ただし、ここで述べられているような形容詞の語幹および副詞「わざと」に接続する例は、本稿で見た実例の中には現れなかった⁽⁴⁾。形容動詞の語幹については名詞との境界が必ずしも明確に決められるわけではないが、本稿で検索した用例の中には、「忠実めく」の例が見られた。また(3)に示した先行研究には「親切めく」という例が挙げられている。

- (7) 森田(1996:196)(下線は引用者)

「～めく」：そうでないモノが極めてそれに近い状態にあることへの極端なマイナス評価の接尾辞である。

ただし、例(1)に挙げた「陽射しが春めいてきた」のような場合を考えると、この(7)で言われるように、「～めく」が「極端なマイナス評価」の表現であるか否かについては、検討が必要であると思われる。

- (8) 『類語国語辞典 第七版』(大野・浜西(1993:458, 1143) 下線は引用者)

…らしくなる

・寝顔は子供—

体言などに付いて動詞を作る。らしくなる（見える）意

・ざわ [色]ー

注：「めく」には、本当にそのものらしくなる意と、一見そのものらしく見える意とがある。

ここでは、「～めく」が2つの意味を持つとの指摘がある。一方の例として挙げられている「寝顔は子供めく」は、起きている時にはそうではなくても、寝ている時の子供の顔は「本当に子供らしく見える」という意味であろう。

この意味で「～めく」を用いていると考えられる例は、おそらく「陽射しが春めく」という例であると思われる。これは、(4)に示した先行研究でも指摘されているように、本当に春が近付いてきている時に用いるものである。しかし、この「陽射しが春めく」の意味するところを、「陽射しが本当に春（そのもの）らしくなる」ことであると記述することについては、検討の余地があると思われる。この点については、第4節で見る。

以上のような先行研究の記述⁶⁾を見ると、以下に挙げた例(9)(10)のa、b、cそれぞれに見られるような意味の違いが、必ずしも明らかになるように記述されていない点が不十分であると思われる。

- (9) a 春めいた陽射し
b 春らしい陽射し
c 春のような／みたいな陽射し

- (10) a お説教めいたことを言う。
b お説教っぽいことを言う。
c お説教じみたことを言う。

3 「～めく」の用例

第3節では、「～めく」がどのような名詞に接続し、どのような事態を述べる際に用いられるのかを、実例をもとに見る。

ここでは、「青空文庫」(<http://www.aozora.co.jp>)の一部抜粋より用例検索を行った結果を見る。用例の抽出には、「茶漉」（日本語コーパスより用例およびコロケーション情報を抽出するソフトウェアシステム）一般公開版 (<http://>

prairie.lang.nagoya-u.ac.jp/chakoshipub.html) を使用した。「茶漉」一般公開版における検索対象のコーパスは、「青空文庫」に収録されているものからの抜粋となっている⁽⁶⁾。

その結果抽出された「～めく」の用例には、以下のようなものが観察された。ここでは、抽出された用例は適宜簡略化し、どのような事態を述べる際に用いられているかにより、簡単に分類した上で掲げる。

(11) 「～めく」の用例

(青空文庫抜粋版を「茶漉」一般公開版にて検索した結果より)

a. 考え方・話し方・書き方等を描写する時

社会主義めいたことを口走る／理想とか、主義とか、意地とかいう理窟めいたものは残っていない／辻褄の合わない脅迫めいた文句を浴びせかける／脅迫めいた事を口走る／脅迫めいた響きを感じさせる言葉／芝居めいた挨拶／註釈めいたことをつけ加える／詭弁めいてそんな疑問を発した／一通り談義めいたことを説いて聴かせる／議論というよりも、感想めいたものだった／まだ何か述懐めいた事をいうらしかった／怪談めいた話などをして学生を笑わせている／怪談めいた噂が伝わった／盛んに笑いながら大きな声で議論めいた話をしている／露ほども蔭口めいたことをいっていない／苦笑しながら忠告めいた事をおっしゃる／訓示めいた事をいう／意見めいた口を利く／小言めいた物の言い方をした／愚痴めいた事は、言わないことにいたしましょう／いまさらかかる愚痴めいた申し開きも武士の恥辱／愚痴めいた小言を言う／つまらない愚痴めいたことを言う／チクリチクリと妙な皮肉めいた事を言いはじめる／ちよっぴり皮肉めいた言い方だった／落書めいた一ひらの文反故／お説教めいた事を言う／その時以来、思想めいたものを持つようになった／口ごもりながら、抗議めいた事を言いかける／非難めく口振り／無責任なお座なりめいた巧言は、あまり使いたくない／こんな予言めいたキザな言葉は、昔も今も大きらいである／一種の予言めいたことを信者たちに云い聞かせた／媚めいた女の声か呼んでいた／国定教科書の肉筆めいた楷書の活字／簡単な絶交状めいた手紙を書いた／思想家の回想録めいた、へんに思わせぶりのもの／公式めいた簡潔な文でよろしくと書いてあった／遺書めいたものが記されている／

新聞の一行知識めいた妙な批評をされて／いかにも律儀者めいて、よくもこんなに根気よく丁寧に書けるものだと感心してしまった／急に自嘲めいた声になる／申す事は、何やら謎めいた所があって、十分に解しかねる／ふざけた調子ではあったが、電話での抗議ぶりには、いくら本當めいたものがあるとも思われた／何か矛盾めくことを言うようだった

b. 心情を描写する時

何か焦燥めいた悔恨の響きを胸に落とす／不良少女などにふと、男心めいたなつかしさを抱く／哲学めいた懐かしみをおぼえる／恋心めいたなつかしさは感じていた／ふと恋心めいた情熱に変わっている／女心は、もはやただならず狂気めいていた／悔恨めいた気持があった／ふと女めいたなつかしさも覚えた／どんな馬であろうと頓着せず、駄馬であればあるほど、自虐めいた快感があった／自虐めいたいやな気持ち／少し自責めいたものを感じていた／敵愾めいたものが出て来て、眠気が消えてしまった／ほっとした救めいたものを感じる／今宵の京都の雨は、わが主人公たちをふと狂気めかせるために、降っていたのであろうか／気恥しく屈辱めくものを感じた／また不思議でも起りそうな、予感めいた心もちがする

c. 人の様子・雰囲気描写する時

謎めいた所がある／客の謎めいた眼の遣り処／何やら神秘めいた雰囲気／上臉の腫れ具合や、顎が二重に括れて来たところに艶めいたいろさえつけていた／白痴めいた寝言／きびきびした才人めいた風采／忠実めいた態度／むくむく女めいて、顔立ちも小ぢんまり整う／女めいた身振りをする／子供めいても、また色っぽく見える／双紙の中の人間めいた、不思議な円光をかける／役所の小役人風めいたおどおどしたその男の態度が哀れだった／ぞろりと着流しの上へ総絞りの兵児帯を結んだ男の格好はいかにもちやちな与太者めいて感いた／脆い神経的な鋭さと、冥想めいた不気味なものとの両面が包まれている

d. 場所の様子・雰囲気描写する時

酒場めいた店／玄関めいた上り口／障子の隙から茶室めいた部屋を覗く／書院めいた座敷へ怪我人を運び込ませた／奥の書院めいたひと間へ通され

た／県道筋について町めいてる処へ樹木に富んだ岡を背負ってる／レンブラントの素描めいた風景が散らばっている／色町に近くどこか艶めいていながらさすがに裏通りらしくうらぶれている／法善寺横丁の艶めいた華やかさはなく

e. 時節の様子・雰囲気を描写する時

正月めいた景気／何となく春の宵めいた暖かい夜風が頬をなでる／もう暮れの二十八日、師走めいた慌しさであった／風の感触は夜めき、空の藍が濃くなって街中の灯が輝きを増す

f. ものごとのやり方・様子・雰囲気を描写する時

時代めいたお芝居みたいだ／入浴法といったが、一種の健康法なのか、あるいはもっと儀式めいたものなのか／小説めいた感じがした／旧劇めいた愁歎場になった／いたずらめいた事のために話はちょっととぎれてしまった／親睦会めいた固まりが出来た／初等の算術めいた理論の研究にふけている／そんな騙りめいたことをして済むと思うか／所詮は狂言めいたものかもしれない／高利貸めいてひっそりと奥深く、しもたやでは出来ぬ商売だった／遊楽めいたこと等は、すべて遠慮するのがその時代の習慣／冒険めいた行動を暗に戒める

g. 具体的な物の様子を描写する時

広告用の小冊子めいたもの／接骨木めいた樹／北国めいた黄葉した落葉松／西洋菓子の間に詰めてあるカンナ屑めいて、緑色の植物が家々の間から萌え出ている／不気味な妖怪めいた頭蓋の模様

h. 芸術の流儀や風情等を描写する時

唐めいた趣味／広重めいた松の立木／鉢植えの紅梅が時々支那めいた句を送って来る／黒い絹の地へ水仙めいた花を縫い取った肩懸け／彼のねらう構図にはつねに夜が感じられて、ふとデカダンめいたが／主人が風流なのか、支那の書棚だの蘭の鉢だの、煎茶家めいた装飾がある

ここで抽出された例を見ると、「～めく」が、考え方・話し方・書き方等を描

写する時、心情を描写する時、人の様子・雰囲気を描写する時、場所の様子・雰囲気を描写する時、時節の様子・雰囲気を描写する時、ものごとのやり方・様子・雰囲気を描写する時、具体的な物の様子を描写する時、芸術の流儀や風情等を描写する時と、様々に用いられていることがわかる。

4 「～めく」の意味

第3節で見た「～めく」の用例を参考に、ここでは「～めく」の意味を再検討してみる。

「XがNめく」の表すスキーマ的な意味は、「名詞Nで表される事物の特徴の一部が事物Xに現れ出る」ことであると考えられる。事物Xが事物Nの様相を帯びることと言ってよい。

すべての用例は、このスキーマ的な意味により記述が可能であると思われるが、第2節の例(9)(10)に挙げたような他の形式との違いを明らかにするためには、より詳細化された意味記述が必要である。

4.1 「XがNめく」の意味①：事態の本来の成り行きとして、事物Nが持つ期待される特徴の一部が事物Xに現れ出る

この意味を表す場合には、「XがNめく」の形をとることが多い。また、「～めく」の用例全体の中で、この意味の用例が占める数は相対的に少ない。時節の様子・雰囲気、あるいは場所の様子・雰囲気について、本来の成り行きとして期待される特徴がそこに現れ出ることを表すものが多い。

第2節で見た先行研究の(8)では、「～めく」に2つの意味があることが指摘されていた。ここで掲げた意味①は、その2つの意味のうち「本当にそのものらしくなる」(大野・浜西(1993:458))とされていた意味にほぼ相当するものになるだろう。しかしながら、先行研究のこの記述には修正の余地があると思われる。

(12) 陽射しが春めいてきた。

例(12)は、春の陽射しの持つ特徴が、その時季の陽光に認められるようになってきたことを表している。季節の変化という事態本来の成り行きにおいて、期待される春の特徴がそこに現れることが表されている。

しかし、以下の例(13) a と(13) b を比べてみるとわかるように、ここで現れ出

るのは、あくまで事物Nの特徴の一部であり、完全に「そのものらしく」なることとは異なっている。

- (13) a 春めいた陽射し
- b 春らしい陽射し

(13) bのように「春らしい陽射し」と言えば、それはまさに「本当に春そのものと感じられるような、“春”の陽射し」のことである。しかし、(13) aの「春めいた陽射し」というのは、ようやく春の“兆し”が見え始めた陽射しであって、春の陽射しそのものが、完全に春だと言えるようになったということを意味するのではない。

即ち、このように「～めく」を用いた場合には、先行研究(8)で言われるように「本当にそのものらしくなる」(大野・浜西 (1993:458) 下線は引用者)というには、まだ至っていないものと考えられる。

季節で言えば、(13) bは例えば「4月半ばの春らしい陽射し」(本当に春そのものの陽射し)と言ってよいが、(13) aはむしろ「(2月半ば～) 3月半ばの春めいた陽射し」(春の兆しが見え始めている陽射し)がふさわしく、「? 4月半ばの春めいた陽射し」と言うのでは、(東京地方では) 時節が遅過ぎ不自然である。

また、陽射しの中に現れたどのような特徴から、具体的にそのように感じられるのかについては、特に特定できなくともよいと思われる。

- (14) どことなく春めいた陽射し

例(14)のように、具体的に対象のどこからそれを感じるのかが漠然としていることを表す「どことなく」という表現とも共起可能である。

- (15) a 春めいた陽射し
- b 春のような／みたいな陽射し

また、(15) bの「春のような／みたいな陽射し」というのは、通常春ではない他の季節に、陽射しが「まるで春と言ってもいい」ようなものであると感じられることを表す。その陽射しは、春のものではなく、季節も、春ではない。

したがって、この(15) bの場合には「? 4月半ばなのに春のような／みたいな陽射しだ」と言うと（東京地方では）不自然であり、「1月半ばなのに春のような／みたいな陽射しだ」であれば自然である。

しかし(15) aの場合には、季節は今まさに春を迎えるところである。真冬などに、たまたま「春」の特徴を持つような暖かい日が射しているというのではない。したがって、逆に「? (12月半ば～) 1月半ばの春めいた陽射し」では早過ぎるため不自然で、「(2月半ば～) 3月半ばの春めいた陽射し」であればふさわしいだろう。

春を迎えるのは、季節の変化という事態において、事態本来の成り行き通りのものである。事態本来の成り行きとして、そこに期待される「春」の特徴が現れ出ることを表していると考えられる。

なお、先行研究では、第2節の(7)で見たように、「～めく」が「マイナス評価」（森田（1996:196））の表現であるとの指摘があるが、この場合に、特にマイナスの評価がなされているとは思われない。

(16) 練習を積んだおかげで、何とか両チームともディベートめいた議論ができるようになった。

例(16)は、両チームの議論に、ようやく「ディベート」なるものが持つ特徴の一部が認められるようになったことを表している。技量の発展・向上という事態の、その本来の成り行きにおいて、期待される特徴がそこに現れ出ることが表されている。

ただし、認められるのはその特徴の一部でしかなく、完全に「ディベート」であると言い切るまでには到っていないものである。

(17) a ?ディベートめいたディベート
b ディベートらしいディベート

(17) bのように「らしい」を用いれば、それが「典型的」なディベートと言ってよいものであることを示すことができる。しかし、(17) aのように「～めく」を用いてそのような意味を表すことはできない。

他にも、このように「事態の本来の成り行きとして、事物Nが持つ期待される

特徴の一部が事物Xに現れ出る」ことを表していると考えられる用例を、以下の例(18)～(23)に挙げる。(以下、記載の URL はいずれも用例検索を行った2003年8月15日現在のものである。検索エンジンは「Google」(<http://www.google.co.jp/>)を使用した。)

- (18) デパートやショッピングモールを中心に、すっかりクリスマスめいてきた今日この頃。
(www.bb-guide.tv/index_backup/1205/)
- (19) もう「秋」めいてきている札幌です。
(www.starkids.co.jp/merumaga/58.html)
- (20) ここから先は完全に河原、である。民家や耕地もほとんど見えなくなり、あたりから生活の気配が全くなり、見渡す限り泥に汚れた背丈ほどもある葎や笹が生い茂る。いよいよ探検めいてきた。
(www.guru.gr.jp/~awa/about/20011123.html)
- (21) もう暮の二十八日、闇市の雑音は急に増えて師走めいた慌しさであった。
(第3節 (11) e の用例より再掲)
- (22) 風の感触は夜めき、空の藍が濃くなって街中の灯が輝きを増す。(同上)
- (23) 色町に近くどこか艶めいていながら流石に裏通りらしくうらぶれている。
(第3節 (11) d の用例より再掲)

いずれも事態本来の成り行きとして、名詞Nで表される事物の特徴の一部が、そこに現れ出ることが表されていると考えられる例である。また、「春めいた陽射し」の場合と同様、これらの例についても、特にマイナスの評価がなされているとは思われない。

4.2 「XがNめく」の意味②：事態の本来の成り行きではないが、事物Nが持つ特徴の一部が事物Xに現れ出る

4.1節で見た「～めく」の意味①と比べると、意味②は、事物Nの特徴が「事態の本来の成り行き」として現れるか否かにおいて対立的な意味を持っている。むしろここでは、本来とは逆の、意図しない方向に事態が進んだと思われる例も多い。

この意味を表す場合には、「NめいたX」の形をとることが多い。意味①と比べると、「～めく」の用例全体の中ではこの意味の用例の占める数が多い。

第2節で見た先行研究の(8)で「～めく」の2つの意味とされていたものうち、ここで掲げた意味は、「一見そのものらしく見える」(大野・浜西(1993:458))とされていた意味にほぼ相当すると思われる。

これは、以下の例(24)のような場合である。

(24) 母はいつもお説教めいたことを言う。

例(24)では、母の話は、「お説教」というものの持つ特徴の一部が、そこに現れ出たものとなっている。ただし、本当に「お説教」をしているわけではない。

(25) a 母の言うことはまさにお説教だ。

b ?母の言うことはまさにお説教めいたことだ。

(25) a のようにお説教そのものであるならば、「まさに」を用いて「間違いなく、確かにそうだ」と言ってもよいが、(25) b のように言うのは不自然である。(“お説教めいたこと”とは何か?)という点が話の焦点になっているのではない。)「お説教めいたこと」には、完全に「お説教」だとは言えない曖昧さが残されているからだと思われる。

(26) a 母はいつもお説教めいたことを言う。

b 母はいつもお説教っぽいことを言う。

また、例(26) b では、話者は頭の中に「お説教」というものの典型的な例を思い浮かべており、母の話をそれに近いものと感じていると思われる。

一方(26) a では、そのように典型的な例との比較が行われているとは思われない。ここでは、対象となる「母の話」そのものについて、内から現れ出てくる特徴を見ていると思われる。

(27) a 母はいつもお説教めいたことを言う。

b 母はいつもお説教のような／みたいなことを言う。

また(27) b は、母の話がどのようなものであるのかを説明する時、それと似て

いると考えられる、「お説教」というある“別”のものを例として出した表現となっている。一方(27) aの方は、そのように母の話の別の何かに“たとえて”いるわけではない。

また、第2節で見た先行研究の(7)では、「～めく」が「そうでないモノが極めてそれに近い状態にあることへの極端なマイナス評価の接尾辞である」(森田(1996:196)(下線は引用者))との指摘がなされていた。4.1節では、意味①に関して、その指摘が適切であるとは思われないことを述べた。この意味②についてはどうだろうか。

- (28) a 話がついお説教めいてしまう。
- b 話がついお説教じみてしまう。

この場合も、上記の例(28)のように「～めく」と「～じみる」とを比較してみると、事態へのマイナス評価については、やはり両者には違いが認められる。

(28) bのように「～じみる」を用いた場合には、確かに事態を「望ましくない」ものにとらえていると考えられるが、(28) aの「～めく」の場合には、必ずしもそうではない。意味①とは異なり、意味②の場合は、事態の本来の成り行きではないために現れ出る特徴についての「非期待性」というものは感じられることになるが、「マイナス評価」を特に強く表すものとは考えられない。

- (29) a きびきびした才人めいた風采 (第3節(11) cの用例より再掲)
- b ?きびきびした才人じみた風采

(29) aのように、「～めく」の場合は、むしろ「プラス」の評価と受け止められる「才人」のような名詞に後接することも可能である。(29) bのように、「～じみる」の場合は、明らかにそのようなプラス評価の表現に後接することは不自然である。

5 まとめ

本稿では、「～めく」がどのような名詞に接続し、どのような事態を述べる際に用いられるかを、実例に従って見た。そして、その結果をもとに、先行研究における「～めく」の意味記述を再検討した。本稿で提示した「～めく」の意味は、

以下のようなものとなる。

(30) 「XがNめく」の意味：

スキーマ的意味：

名詞Nで表される事物の特徴の一部が
事物Xに現れ出る

意味①：

事態の本来の成り行きとして、
事物Nが持つ期待される特徴の
一部が事物Xに現れ出る

意味②：

事態の本来の成り行きではないが、
事物Nが持つ特徴の一部が
事物Xに現れ出る

例：陽射しが春めいてきた。

例：ついお説教めいたことを言う。

より精密な論証を行っていくことを次段階の課題としたい。

注

- (1) 他に動詞から派生したものとして「目が眩む→めくるめく」の例が挙げられている。
- (2) この他に「きらめく、うごめく、はためく、ひらめく、いろめく、ときめく」などが例として挙げられ、「これらはそれぞれ動詞として辞書にも載っています」とされている(白川博之監修(2001:543))。先行研究(3)のところでも記したように、通常一語の動詞として辞書に記載されていると考えられるこれらの語については、本稿では分析の対象から除く。
- (3) ここでも他に「うごめく、ざわめく、はためく、うめく」などの例が挙げられている。本稿では分析の対象から除くが、このように一語化していると考えられるものは、他にも「ゆらめく、ひしめく、どよめく、わめく、(あわて)ふためく、(わらい)さざめく」などがあると考えられる。
- (4) 「ふるめく」については、辞書では一語の動詞として記載されている。
- (5) 他にも、時枝(1950:134)には「春めく、田舎めく」、国立国語研究所(1985:53)には「春めく、時めく、色めく、なまめく、さざめく、よろめく」の例が挙げられている。

- (6) この「青空文庫」からの抜粋版コーパスの選定基準は、「著作権が切れているもの」「日本人作家によるもの」「散文のもの（小説、童話、評論、随筆など）」「旧字体・旧仮名遣いでないもの」という4つの基準を全て満たしていること（名古屋大学国際言語文化研究科（2001:21））とされている。収録されている作品については、大曾編（2003:159-173）に一覧がある。

引用文献

- 大阪YWCA日本語教師会 岡本牧子・氏原庸子・砂辺太郎（2000）『くらべてわかる 日本語表現文型ノート』大阪YWCA日本語教師会
- 大曾美恵子編（2003）『日本語学習辞書編纂に向けた電子化コーパス利用によるコロケーション研究』（平成13年度～15年度：科学研究費補助金基盤研究（B）（2）：課題番号13480069 中間報告論文集）
- 大野 晋・浜西正人（1993）『類語国語辞典 第七版』角川書店
- グループ・ジャマシイ編著（1998）『日本語文型辞典』くろしお出版
- 国立国語研究所（1985）『語彙の研究と教育（下）』（日本語教育指導参考書13）
- 白川博之監修（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 時枝誠記（1950）『日本文法 口語編』岩波全書
- 名古屋大学国際言語文化研究科（2001）『日本語電子化資料収集・作成－コーパスに基づく日本語研究と日本語教育への応用を目指して－』（平成12年度名古屋大学教育研究改革・改善プロジェクト報告書）
- 日本語教育学会編（1987）『日本語教育事典（縮刷版）』大修館書店
- 森田良行（1996）『意味分析の方法－理論と実践－』ひつじ書房

The Meaning of the Suffix “-meku” and its Usage in a Corpus

SUZUKI, Tomomi

The purpose of this paper is to analyze the meaning of the suffix *-meku* and examine its collocation in a linguistic corpus.

From the point of view of speaker’s “expectation” towards the situation, the meaning of *-meku* is outlined as follows:

- (1) “X ga N-*meku*” demonstrates that some features of N appear on the thing X.
- (2) When this appearance is due to a natural change in the situation, the features can be considered “expected” ones.
- (3) On the other hand, when this appearance is not a natural result of a change in the situation, such features cannot be called “expected”.

This analysis differs from previous study analyzing *-meku* as a suffix used to show the speaker’s “negative” evaluation towards a situation.

Additionally, some examples of the usage of *-meku* in a linguistic corpus are given, to show what kinds of N (nouns) precede *-meku*.